

知的障害をもつ母と子、 うつ病の父の3人家族をどう支えていくか

スーパーバイザー

野中 猛（日本福祉大学教授）

事例提出者

Mさん（総合相談センター・コーディネーター・社会福祉士）

事例の概要

・クライアント

Tさん（51歳・女性）

・家族

夫（52歳）と長男（15歳・養護学校）との3人暮らし。夫は以前、うつ病で2年ほど家に閉じこもっていたことがある。長男は重度（療育手帳A）の知的障害をもつ。

15年ほど前、長女を川の事故で亡くしている（そのことで今も夫から責められている）。

・心身状況

Tさんには小児マヒ（弛緩性マヒ）と知的障害がある。手帳は身障手帳（上肢7級・下肢5級）と療育手帳Bをもっている。

・生活歴

隣県で生まれ育つ。高校1年生の時、養護学校へ転校。高校卒業後、更正訓練施設に入所。その後、洋裁学校に通い、1年ほど洋裁の仕事に就く。21歳で結婚。長女をもうけるが、事故で亡くす。その後、長男を出産。

・住宅環境

公営アパートの5階（エレベータが偶数階にしか止まらないため、6階から階段を降りる）。間取りは2DK。

・地域住民とのかかわり

近所づきあいはあまりない。階下から苦情あり。

・経済状況

夫の収入（家には6～7万円しか入れない）、Tさんの障害基礎年金、特別児童手当。借金がある（金額は不明）。

・主訴

- ・子育てに悩んでいる（夫は手伝ってくれない）。
- ・膝や腰の痛みがひどくなってきた。

・利用しているサービス

ホームヘルプサービス（長男に対して）、週1回1時間半

・事例提出者のアセスメント

生活のなかに生きがいや楽しみが見つけれないまま日々が過ぎていく。夫は育児に参加せず、第一子を亡くした事故のことを折にふれ責められるなど、夫から認められていないことに不満を感じている。身体状況の悪化（アパートの階段昇降がづらい）に加え、子どもの世話に追われており、友人との交流も頻繁にはできない。本人はそうした状況を「仕方がない」と諦めているところがある。

洋裁の仕事をしていたこともあり、かつては子どもの服も自分で作っていたが、目や手足に負担がかり、根気が続かないとのこと。しかし、就労経験もあり真面目な性格なので、軽作業に取り組むことは可能だと思われる。

昔の友達の話や就労していた頃の話になると生き生きとし、本人の秘めている力を感じた。



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきます。

ケース検討会

野中 ありがとうございます。なかなか複雑な事例ですね。知的障害をもつ子どもとうつ病の既往がある夫。クライアントの母親自身も小児マヒと知的障害をもっているというケースです。この家族をこれから支援していくためには、どんな手立てが考えられるでしょう。まずは、見立て（アセスメント）をもう少し深めていきましょう。主観を交えずに事実を聞いていってください。ある程度情報がそろったところで、具体的な手立て（プランニング）を考えていきたいと思います。では、質問をどうぞ。

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

生活歴について

発言 最初のお子さんの事故死は、Tさんが責められるような状況だったのですか。

Mさん まだ長男が生まれる前に、亡くなったお子さんと親子3人で川に遊びに行ったときに起きた事故です。ご主人も一緒に行っていたのですが、子どもの姿が見えなくなったときは、ご主人はその場にいなかったそうです。事故以来、ことあるごとに「お前が死なせた」と言われているそうです。事故の具体的な状況についてはおっしゃいません。

野中 事故は何年前のことですか？

Mさん 15年ほど前のことです。亡くなったお子さんは小学校2年生でした。

野中 もう少し客観的な情報がほしいですね。きょうだいや親戚関係で話を聞けそうな方はいますか？

Mさん ご主人のほうは、一人っ子でご両親も他界されており、親戚関係についてはまったく情報がありません。Tさんのほうは、ご両親は亡くなっているのですが、お兄さんが一人いらっしゃいます。

野中 どこに住んでいるのですか？

Mさん 車で1時間くらいのところですよ。

野中 Tさん一家との関係は？

Mさん 日常的なお付き合いはないようですが、絶縁関係というわけでもないようです。

野中 だったら、Tさんの了解を得てお兄さんに会うと、事故のことやTさん家族の生活史など、客観的な情報が得られる可能性はありますね。

Mさん そうですね。トライしてみます。

母と子の理解力・身体状況について

発言 Tさんの理解力のレベルですが、Mさんの話の内容はすべて理解できるのですか？

Mさん すべてではありませんが、ある程度は理解できます。療育手帳Bをもたれていますので、その程度の理解力です。文章を書くと、意味の通った文にはなりません。

発言 漢字の読み書きや計算はできるのですか？

Mさん 漢字は書けますが、時々使い方が間違っていることがあります。読むほうは、かなり怪しいと思います。学校からの修学旅行に関するプリントなども内容を把握していませんでした。計算は日常の買い物程度はできますが、大きい金額になるとわからなくなります。

発言 友人などとの交流はあるのですか？

Mさん 高校卒業後、更正訓練施設に2年間いらしたことがあって、そのときのお友達とは電話のやりとりがあるようです。それと、今の住居に引っ越し前、長女さんが生きておられるときのご近所の方で、年の近い方がいらっやあって、時々会ってお話をすることもあるようです。

発言 Tさんは階段を降りるのも難しいということですが、身体状況をもう少し教えてください。

Mさん Tさんは2歳のときに小児マヒと診断されています。しばらく医療機関にかかっていたので、私がかかわるようになってから、2カ月ほど前に整形外科の受診を勧めて、私も同席したのですが、レントゲン写真を見ると腰骨の位置が左右でかなり違ってきます。悪いほうの左足は細いだけではなく、かなり短くなっています。左足は足の裏がアーチのようになっていて、歩くのも大変だろうと思うのですが、実際には何kmも歩いておられます。

発言 家事等はどの程度されているのですか？

Mさん 患側は手も少し曲がっていますので、家事全般にとっても時間がかかりますが、それでも、一応掃除、洗濯、炊事、買い物等をこなしています。

発言 息子さんはお父さんやお母さんのことをどう思っているのでしょうか。

Mさん 息子さんは言葉の数が少なく、「パパ」「かあさん」「バイバイ」、それとお風呂を「バブ」。それくらいしかありません。

野中 相当重度ですね。

Mさん はい。

野中 移動能力は？

Mさん 歩くのはどこまででも歩いていけます。ただ、一人では決してどこへも行きません。

夫の状態について

発言 ご主人は家にはお金を月に6~7万円しか入れないということですが、その他のお金は何に使われているのでしょうか。



Mさん Tさんの話では、飲んで使うのと、車の維持費です。わりと最近、新車を買われています。

野中 車種はわかりますか？

Mさん 1300ccぐらいの5ナンバーの普通車です。

発言 借金というのはどれくらいあるのですか？

Mさん 詳しくはわかりません。どうも夫婦ともに借金があるようです。

発言 Mさんはご主人とは会われているのですか？

Mさん 最近は会っていません。「久しぶりにお会いしたいですね」とTさんに言うのですが、いつ行ってもお仕事や「今、出かけた」とかでお会いできません。数カ月前、息子さんの運動会のときに姿を見かけたのですが、ちょっと表情がないというか、とても声をかけづらい雰囲気でした。

野中 夫のうつは何年前からですか？

Mさん 正確にはわからないのですが、今のアパートに越してからですから、5年以内ではあります。

野中 家に閉じこもっていた間は、入院はしていなかったのですか？

Mさん はい。入院はしていません。ずっと家の中にいたそうです。

野中 そうですか——。どうも、夫も支援が必要な人のようですね。夫の仕事は？

Mさん 工場のようなところで、力仕事です。50歳を過ぎての力仕事なので、しょっちゅう「疲れる、疲れる」と言っているそうです。

野中 以前はどんな仕事を？

Mさん いろいろな仕事を転々とされていたそうです。主に営業の仕事だったようです。

野中 具体的に聞いていますか？

Mさん Tさんに「どんな仕事だったの？」と聞いたら、「ようわからん」ということでした。

野中 コミュニケーション障害をもっている方の場合、言葉で情報を得るより「アルバムを見せてもらえない？」と見せてもらったほうが早いでしょう。もしアルバムがなければ、その理由を尋ねることで家族の歴史にまつわる話をうかがうこともできますよね。

Mさん なるほど。参考にさせていただきます。

クライアントの悩みについて

発言 下の階の方からの苦情があるということですが、どんな内容の苦情なのでしょう。

Mさん 息子さんが最近、性的な衝動なのだと思いますが、学校から帰ってくると布団を敷いておちんちんを触って足をバタバタさせるんだそうです。それが下に響くそうで、苦情が出ています。実は、Tさんがいま一番悩んでいるのは、そのことです。

野中 思春期に入って性衝動から足をバタバタさせる。それをどうしたらいいか、ということですね。

Mさん はい。女の私に聞かれてもちょっと困るので(笑)、「そこはお父さんの出番じゃない？」とTさんに言うと、「お父さんは『そんなことはわからん』と言う」とおっしゃるんです。

野中 その言葉はご主人から直接Mさんが聞いたわけではないですよね。

Mさん はい。

野中 じゃあ、本当にそう言ったのかどうかはわかりませんね。やはり、ご主人に会って話をしたいですね。ただ、私も父親なのでわかるのですが、性の

処理の問題は父親も困るんです(笑)。本当は仲間関係のなかで学ぶのが一番いいのですが、息子さんにはそういう仲間関係がないのでしょうか。

Mさん そうだと思います。

野中 息子さんの性的支援プログラムについては、プランニングの時にまた考えましょう。

支援の現状について

発言 今はどんな支援を利用しているのですか？

Mさん 息子さんに対して、週1回1時間半ヘルパーが入っています。ボール遊びをしたり、息子さんと一緒に散歩をしたり、通院同行をしています。ただ、最近はヘルパーさんも「お母さんはこの子をどう育てたいのだろう」とかなり悩んでいます。

発言 学校はどんな支援をしているのですか？

Mさん 実は、息子さんが2、3歳の頃に私どもの施設に歩行訓練に来ていたので、前々からこのご家庭のことは知っていたのですが、今回は特別支援教育コーディネーターから電話があり、「お母さんは自分からは相談しないでしょうから、そちらから訪問してあげてもらえないでしょうか」と言われたのが、かかわりのきっかけなんです。

野中 教育コーディネーターの性別と年齢は？

Mさん 50歳前後の女性です。

野中 本当はその人がケアコーディネーターを務めなければいけないんですがね。

Mさん 電話はよくかかってくるんですが、いつも「よろしくお願いします」とおっしゃいます(苦笑)。

野中 たしかに、教育コーディネーターはお金が付くわけではありませんからインセンティブは働きにくいんです。ただ、この人の役割はとても重要です。その点も後で考えましょう。

生活状況・能力について

発言 Tさん一家の日課を教えてください。

Mさん Tさんは朝は5時くらいに起きます。

野中 早いですねえ。

Mさん 家事に時間がかかるので、そうしないと間に合わないのです。息子さんを起こす8時頃までに、朝食の支度や掃除、洗濯などを済ませます。

野中 ダンナは？

Mさん 7時過ぎに起きて朝食を食べ、8時過ぎに自転車で仕事に出かけます。

野中 自転車？ お気に入りの新車は？(笑)

Mさん 経済面を考慮して自転車通勤にしているそうです。車は休みの日に乗るそうで、Tさんは「めったに乗せてもらえない」とおっしゃっています。

野中 車は実用というより、夫の趣味なんですね。

Mさん はい。

野中 息子さんが帰ってくるのは？

Mさん スクールバスがバス停に着くのが夕方4時前です。それからは、下の階に迷惑をかけるからと、息子さんと二人でなるべく外にいるようにしているそうです。そして、7時くらいには夕食を食べて9時頃には寝ます。

野中 夕食もTさんが支度をするのですか？

Mさん そうです。

野中 どんな料理を作っているんでしょうね。

Mさん 私も直接見たことはないのですが、以前お子さんのお弁当を作っていたとき、うまくメニューが考えられないということで栄養士の指導を受けていたことがあるのですが、すぐに卵とウインナーだけのお弁当に戻ってしまいました。たぶん、栄養のバランスなどは十分ではないと思います。

野中 掃除の能力はどうですか？

Mさん 本人は「している」とおっしゃるのですが、畳の上は猫の毛だらけで、決してきれいに片づいているとはいえません。

野中 洗濯は？

Mさん 洗濯機を使って、ほぼ毎日しています。

野中 干し方はどうですか。ピンピンと伸ばしてますか？

Mさん ちゃんと干しています。もともと洋裁の学校に行っていたことがあり、衣類を扱うのは慣れて

いらっしやいます。

野中 なるほど。ゴミ出しは？

Mさん ちゃんと収集日に出しています。

野中 自治会の当番などは？

Mさん 年に何回か行われる公共スペースの掃除などもちゃんと出ています。

野中 ということは、料理や掃除の質は不十分なところもあるけれども、主婦としての基本的な家事能力や社会生活をこなす力はあるようですね。へたな援助職より能力が高いかもしれない(笑)。

発言 土曜日・日曜日はどうのように？

Mさん どちらか1日は、息子さんと2人でひたすら歩いているようです。駅まで5kmほどあるのですが、その道りを歩いて駅ビルに行ったりしています。先ほどご説明したような身体状態なので、とても苦しいと思うのですが……。それと、時々ですが、息子さんはミニ・デイを利用しています。

発言 先ほど、ヘルパーさんが息子さんの将来について悩んでいるということでしたが、Tさん自身はどう考えていらっしやるのでしょうか。

Mさん それか、全然ビジョンがないんです。将来について尋ねると、「さあ、どうなるんでしょう」といった答えしか返ってきません。

発言 情報がないからそういう答えになるのか、それとも、情報をもっていても選択する力がないということなのでしょう。

Mさん 「こういう選択肢がありますよ」と説明しても、具体的にイメージできないという状況です。

手立て編(プランニング)

野中 さて、まだまだ情報は十分ではありませんが、ここまでのやりとりで、おぼろげながらこの一家の状況が見えてきました。これからどんな情報を集める必要があるかという点も含めて、プランニングを考えていきましょう。どんな支援があるとよいか、アイデアを出してあげてください。

クライアントの身体面に関する支援

発言 川での事故の話やこれまでのTさん一家の生活歴について、Tさんのお兄さんに話を聞く。

野中 そうですね。客観的な情報が欲しいですね。

発言 Tさん自身の身体状態が気にかかりました。医師の二次アセスメントは必要ないでしょうか？

野中 同行受診した医師と情報交換はできますね。

Mさん はい。

野中 では、PTにも入ってもらって、補装具などについても相談するといいいでしょうか。

Mさん わかりました。

発言 Tさんは階段を降りるのも大変な苦勞をされているようですし、もう少し楽に生活できる部屋に移ることはできないのでしょうか。

Mさん 実は、同じ棟の1階の部屋が空いているので、移ったらどうかと勧めてみたのですが、「内緒で猫を飼っていて、畳やふすまがボロボロになっているので、移れないんです」と断られました。

野中 それはおそらく表向きの理由で、本当は引越すのが大変だと思っているのでしょうか。援助を受け入れるにはタイミングがありますから、援助者側は情報を示して、いつでも選べますよ、という状態にしておくことが大切です。本当に必要性を感じたときには、向こうから言ってきますから。

Mさん はい、わかりました。

夫にどう対応するか

発言 私は、夫と会いたいと思いました。

野中 どうやって会いますか？

発言 仕事から帰る時間に合わせて訪問するか、休日に訪ねます。

野中 Mさんはどの方法がやりやすいですか？

Mさん 帰りの時間に合わせてアポなしで訪問するのがいいかもしれません。約束をしても、スルッと逃げられてしまうので……。

野中 責められると思っているのでしょうかね。

Mさん たぶんそうだと思います。



野中 こういう立場の人と会う時のコツは、「あなたを責めるために会うのではなく、情報が欲しいだけなのです。どうかお手伝いしてもらえませんか」と、援助者同士というスタンスで会うことです。それを匂わせることが大切です。

Mさん はい、わかりました。

発言 私もご主人の状態が気になります。親しい人などサポーターになれる人を探したいと思います。

野中 親しい人はわかりますか、Mさん？

Mさん ご主人に関してはほとんど情報をもっていないので……。

野中 夫と会って話をするなかで見えてくるかもしれません。いずれにせよ、夫は間違いなく支援が必要な人です。まずは会わないといけませんね。

Mさん はい。

悩みの元を解消する

発言 経済状況に関する情報が曖昧なので、通帳の記録を見せていただくか、銀行にご本人と一緒に行って記帳をすると、収入に関する情報を得られるのではないのでしょうか。

野中 それも一つの方法ですね。

発言 教育コーディネーターと連絡をとり、一緒に支援について考えてもらう。

野中 大事な点です。週1回訪問しているヘルパーさんとこの教育コーディネーター、そして担任の先生などもメンバーに加わってもらって、チームを作っていきたいですね。

Mさん はい。

発言 自治会長や民生委員にも援助チームに入ってもらっていただくことはできないでしょうか。

野中 民生委員には会ったことはありますか？

Mさん いいえ、まだお会いしていません。

野中 では、まず力になってもらえそうな人なのかどうかをチェックすることが必要ですね。民生委員の質は一律ではありませんから。

発言 苦情を言ってきている階下の方との関係を調整する必要はないでしょうか。

野中 気持ちはよくわかりますが、そこにさわるとおそらく大変ですよ。下の人が訴訟でも起こせば別ですが、今の状態で介入すると、余計に問題がこじれる可能性があります。その代わりに、自治会長や民生委員に事情を話し、「何か事が起こりそうだったら、すぐに専門家が対策を講じますので」と言っておくのです。そうすれば、彼らも安心ですし、この一家が不当に責められることもないでしょう。

Mさん なるほど――。

野中 それよりも、より根本的には、騒音の原因を断つことです。つまり、マスターベーションの方法を教えてあげればいいわけです。このケースの場合は、学校の仕事でしょうね。教育コーディネーターも女性ですから、校長先生に話をしてもらって、「私、女なのでうまくできません。なんとかしてもらえませんか」と言えば、校長先生も考えてくれるでしょう。というのは、性の問題はこの息子さんだけのことではありません。本当は学校としても取り組み方を考えておくべきテーマなんです。

Mさん わかりました。

社会資源をどうコーディネートするか

発言 土・日に利用しているミニ・デイの役割や利用目的をもう少し明確にしたいと思いました。

野中 大事な点ですね。そのためにも、Tさん夫婦と支援チームが協力して、息子さんの自立に向けたマネジメントをしていきたいですね。

発言 掃除が不十分ということでしたが、もしTさん自身にヘルパーが使えるなら、一緒に掃除をしていただくかたちの身体介護などはどうでしょう。

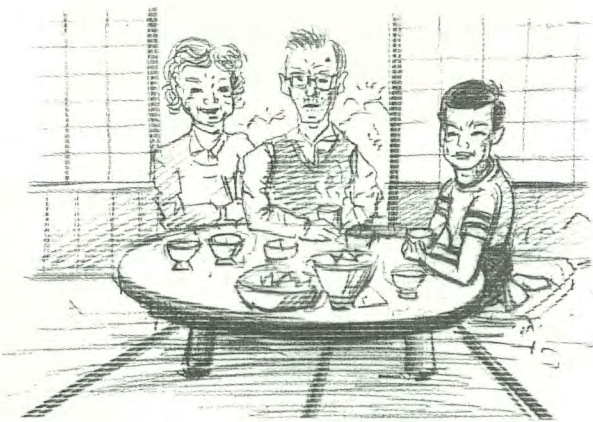
野中 そのためには、まずTさんのIADLをもう少し厳密にチェックする必要があるでしょうね。そして、どの部分をお願いするのかを考えるという段取りでしょう。

Mさん はい。

発言 裁縫の能力がある方なので、サークルなどで指導をするといったことはできないでしょうか。

野中 いいですね。Tさんのもっている力を活かすことはできないか。言いかえれば、子どものために使っていた時間を自分自身のために使えるような活動を探したいですね。というのは、知的障害の子どもをもった母親は、健常者であっても同じ困難を抱えるのです。どうやって子どもと離れた時間を作り、お母さん自身の人生を生きてもらうか。これはこのケースに限らない大きなテーマです。

Mさん わかりました。努力してみます。



発言 Tさんが社会参加をするためには、その前提として息子さんを預ける場所が必要になってくると思います。息子さんの状態にあった放課後の過ごし方支援を考えたいと思いました。

野中 そのとおりですね。お母さんの支援と息子さんの支援は同時に考えていく必要があります。そうなるとう気になるのが、父親です。これまでの話を聞いていると、おそらくこの父親は遠からず再発するでしょう。そのときに、きっちりと医療に結びつけて、夫のサポート体制をつくることです。医療の専門家チームに夫を任すことができれば、とりあえずMさんが集中する対象は絞ることができますから。

Mさん はい。そのためにも、まずはご主人に会いたいと思います。

野中 皆さんが出してくださったアイデアをまとめると、だいたい図のようになると思います。一番のポイントは教育コーディネーターを巻き込み、支援の中核チームをきちんと機能させられるかどうかですね。できそうですか？

Mさん 教育コーディネーターとはよく連絡をとりあっていますので、お互いの役割を確認し、協力しあっていけるよう話し合ってみます。こちらがきちんと話をすれば、わかっていただけたと思います。

野中 そうやって核となるチームができれば、あとは母子分離をきちんとする。そして夫の状況をモニターして、支援のタイミングをはずさないことです。このご夫婦は50代に入ったばかりです。これから老後に向けて夫婦関係を再構築していく必要があります。そして、息子さんの支援の今後のテーマは「自立」でしょう。そんなに簡単に進むケースではないと思いますが、長い時間をかけてつくられた状況を変えていくには、当然それなりの時間が必要になってきます。頑張ってくださいね。

Mさん はい。今日は複雑に絡み合った問題を皆さんに整理していただき、頭の中がスッキリしました。中核チームの立ち上げをはじめ、いただいたアイデアをできるところから着実に実践していきたいです。今日はありがとうございました。

